

活動名：茨城遠征「波崎SUPER COPA U-11大会」

日程：平成26年7月25日（金）～27日（日）

会場：波崎ジャンパーロード

参加：トップ5クラス 13名

帯同：設楽、渡邊コーチ

報告：渡邊コーチ

結果：12位（18チーム参加）

トップ5クラスは、来年最高学年となるもののU-11年代は公式戦が少なくなることから、来年に向けたレベルアップとして今回、波崎SUPER COPA U-11大会の参加を決定しました。

この大会は、夏と冬の年2回開催しており、それぞれのチャンピオンが春に戦い優勝すると韓国遠征に行くことが出来るため、茨城県をはじめ、東京都、千葉県、栃木県などの強豪チームが参加しているため、レベルの高い大会でした。そのため、トップ5クラスの13名は非常に素晴らしい体験をすることが出来ました。



予選リーグは2日間にかけて行われました。

1日目

予選1試合目 ●1-9 Refino94

前半12分過ぎまで0-0と良い試合をしていましたが、選手交代のタイミングを誤り立て続けに失点し終わってみれば大敗。

唯一の得点は、右サイドペナルティエリア少し手前から、GK前にクロスボールを入れ、そこにファーサイドから選手が飛び込んだことで、GKが目測を誤り、そのまま直接ゴールとなった。

【課題】ドリブルで相手を抜いてからのコース取り

身体の入れ方

攻撃の仕方

判断のスピード

ボールを奪うタイミング

ポジショニング



予選2試合目 ○2-0 スポルトやちよB

1試合目の反省から、相手DFの裏のスペースを狙う攻めを繰り返し、圧倒的に攻めるもシュートがゴールの枠に飛ばず、2得点で終わってしまった。時折、前掛かりとなっていたためカウンターをくろう場面もあったが、DFが踏ん張り無失点に抑えることができた。

【課題】シュート精度

パス精度

ゲーム中の判断力



練習試合①

●藤崎S C

全選手足が止まり、攻守ともにルーズだった。また、ゴールキックをことごとく相手選手に奪われた。

【課題】メンタル



2日目

予選3試合目 ○6-1 コラソン千葉B

足先だけのプレースタイルから身体を使ったプレーが出来るようになり
はじめ、チームとして一体感が出てきた。

【課題】シュート精度
ポジショニング



予選4試合目 ●0-2 ラルクヴェールW

ボールへの寄せ、ボールを奪ってからの展開力など、全てにおいて相手
チームを上回っていたが、最後フィニッシュが決まらず、逆に、コーナ
ーキックから直接ヘディングシュートを決められ先制点を許すと、即席
GKとDFの連携ミスから2点目をゆるしてしまい試合終了。負けた感
じのしない敗北となりました。

【課題】シュート精度
コミュニケーション



予選5試合目 ●0-9 Wings G (今大会準優勝チーム)

シュート精度、身体の入れ方、寄せの速さなど、全てにおいて完敗でした。ほとんどの選手が1対1で負けていましたが、初日では見られなかった身体を張った魂のこもったプレーを全選手が見せてくれました。また、少ないながらも決定的なチャンスが何度かあったが、相手GKのファインセーブなどもあり、最後までゴールを奪うことが出来なかった。1戦ごとに全選手が成長していることを感じたが、レベルが高い相手だとまだまだ対等に戦うことが出来ないことがわかりました。

【課題】シュート精度

寄せのスピード

ゲーム中の判断力

判断のスピード

身体の入れ方

ドリブルで相手を抜いてからのコース取り

パス精度



練習試合② ●3-6 コレーガ（今大会優勝チーム）

途中リードするも全体的に運動量が足りず、相手チームのショートパスを繋ぐサッカーに崩され敗北。正直、今大会優勝チーム相手にここまで戦えるようになったことに驚きました。



予選の結果、上位トーナメントには進めず、中位トーナメントとなりました。

中位トーナメント1回戦

●0-1 ラルクヴェールW

終始圧倒的に攻めていましたが、相手チームにミドルシュートを打たれ失点。その後も相手DFの裏を突く攻めなどでチャンスを多く作り出してもシュートがゴールポストに2回当たるなどの不運もあり結局無得点で試合終了。身体の入力方、パス精度、判断力など、成長の跡が見られるようになりました。

【課題】シュート精度



練習試合③ ○1-0 磯辺FC

選手たちには、練習試合と伝えずに戦ったため、最後まで集中を切らさずに戦っていました。

11位決定戦 ●1-2 磯辺FC

先制し終始攻めていたが一瞬の隙をつかれ後半終了間際に立て続けに失点し敗北。

【課題】シュート精度



【まとめ】

結果的に12位ではありましたが、試合内容から判断すると多くの学びを得られる機会であり、参加して良かったと思っています。

この大会の上位に入ったチームの多くが、相手DFの裏のスペースを突くための戦術が徹底されリズムの良い攻めをしており、シュートの精度も高かったです。また、全体的にどのチームもGKのレベルが高く、甘いコースのシュートはことごとく防がれました。

私たちは、常日頃、個のスキルアップを中心に練習しているため、個の勝負には勝っても試合には負けるということが多々あります。目先の勝利にとらわれることなく、選手一人ひとりの成長を考え、焦らず、じっくりと練習に取り組むことが大切であると再認識しました。また、1戦ごとに課題を少しずつ克服し成長するトップ5クラスの選手を見て、選手の無限の可能性を感じました。トップ5クラスの選手は、この時期（5年生）に同年代の関東地区のサッカーを肌で感じ、いつもの大会とは異なり親元を離れ三日三晩、仲間とともに過ごし戦ったこと、毎晩自分たちでユニフォームを洗濯したこと、夜の砂浜で無邪気に遊んだこと、夜の道路で手を挙げて走り続けたこと、ハーフタイムの間にユニフォームを忘れ上半身裸になりピッチを駆け抜けたことなど、本当に良い夏の経験となったことと思います。特に、予選5試合目、同年代相手に個の勝負に負け、全員が自分の体を張りゴールを守ろうとするも得点を奪われ終了後に何人かの選手が見せた悔し涙。日頃の練習や日常生活での甘えがこれだけの差を生んでしまったことを痛感したことでしょう。サッカーを好きな気持ちは、決して負けていないと思いますが、サッカーに対する取り組む姿勢には差があったのではないのでしょうか。まだ、トップ5クラスのみんなは10歳から11歳と若い年齢。これからの過ごし方でなんとでもな

ることでしょう。これからのみんなに期待しています。

私自身、初日の懇談会終了後、設楽代表からコーチングの内容やゲームプランなど多くの助言をいただき、口では選手のためとは言っているものの結局は目先の勝利にとられ自分の考え（エゴ）を選手に押し付けるようなコーチングをしていることや自分自身に余裕が無かったことに気づかされました。2日目以降は、他チームのコーチングなどを拝見し勉強させてもらいました。ある意味、私自身もこの歳に気付いて良かったと思います。改めて、サッカーの奥深さ、コーチ業のうま味、子供たちの可能性を学ぶことができ、有意義な3日間でした。私もトップ5クラスのみんなに負けないよう、年齢的には伸びしろが少ないのですが、今まで以上に成長できるよう頑張る決意です。

最後に、今回このような素晴らしい大会にお誘いいただきました“ゆうゆうツーリングさん”大会を運営していただいた“ラルクヴェール千葉さん”ありがとうございました。また、遠方にも関わらず多くの差し入れをいただき、応援していただいたご父兄の皆さん、ありがとうございました。









